

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を作り上げ、誰の目にも付きやすいように玄関に掲示している	目に付きやすい場所に理念を掲示し、常に意識してケアを行えるように努めたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を共有しているとは言えない。	<input type="radio"/> 全職員が理念を共有できるように、スタッフの目のつきやすい廊下にも掲示し、常に意識するように努めてる。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時に、家族の方に説明し、玄関にも掲示し、いつでも目につくようにしている。	スタッフが理念を実践し、家族や地域の方に理念を実感してもらえるように努めたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方と挨拶や会話をし、交流を図るように努めている。	<input type="radio"/> 今まで以上に、気軽に声を掛け合える関係を広げていくために、工夫していきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に積極的に参加している。花火大会の時には、ポスターを掲示し、近所の方をホームに招待している。	これからも、地域の行事に参加して、ホームのことを地域の方に理解してもらえるように努めたい。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通して、地域の方の意見を取り入れている。宇治市内での新事業を拡大し、より地域に根ざすよう努めている。	○	地域の方に、よりホームのこと(事業内容、理念、雰囲気等)を知ってもらえるように努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることによって、職員自身のケアや心構え等を見直すことができている。客観的な意見を聞くことによっても、新しい発見を得ることができた。	○	自己評価、外部評価によって気づいた点について、スタッフ全員で常に意識し、見直し、改善をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的に報告し、家族代表者、地域の方等、様々な視点から意見を頂き、サービス向上に活かしている。	○	運営推進会議の内容、意見について全スタッフが把握できるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者等が、市担当者と会う機会を作り、相談等を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全体として学ぶ機会はなく、個人の知識しかない。	○	制度についての勉強会を行い、必要ときに活用、助言ができるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体として、虐待の防止に関する研修により学ぶ機会が設けられている。		

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員が、御家族が納得するまで、説明、話し合いを行っている。	○	日頃から家族の方の不安や疑問点を言って頂けるような関係を築いていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に来てもらい、機会を設けている。		様々な視点からの意見を受けとめ、サービスの向上に努めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、個別に写真付きの通信を書いて、近況や健康状態等を家族の方にお知らせしている。来訪時にも様子を伝えている。		利用者の様子がよくわかるよう、又、家族の方が思いを言いやすいような報告を心掛けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回、ケアプラン説明時に機会がある。介護相談員、外部評価、運営推進会議を取り入れ、機会を設けている。		日頃の来訪時にも、不満や意見を言いやすい雰囲気作りに努めたい。様々な意見をサービス向上に活かしたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議があり、意見交換をし、取り入れている。また、定期的に常勤勉強会、職員面談を行っている。		これまで以上に、より活発に意見交換をしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院受診の付き添い等で、職員が必要な場合、調整を行っている。		要望や状況の変化があった場合は、柔軟に対応できるよう努めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にはスタッフの異動は行っていない。新スタッフには、利用者と早く馴染めるようサポートしている。		利用者へのダメージを最小限にとどめるため、新スタッフが利用者馴染んだ時点で、旧スタッフの異動離職が行えるよう配慮している。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>三カ月ごとに常勤で事例研究の勉強会を行っている。外部の研修に積極的に参加している。</p>	<p>スタッフ間での意見交換、OJTをより活発に行い、知識、技術の向上に努めていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に所属し、勉強会や職員の交換研修に参加している。</p>	<p>他グループホームの職員との交流を通して、自分達のケア、方針を見直し、又、参考にする点を見つけ、サービスの質の向上に努めていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年数回の懇親会があり、スタッフの交流、息抜きの機会になっている。又、普段からスタッフ同士で話しやすい環境になっている。</p>	<p>年数回の懇親会、個人面談を行っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者が介護方針や理念に基づき方向性を明らかにし、スタッフと共に実践し、技術を向上しようとしている。</p>	<p>スタッフと意志疎通を図り向上心を持って働くことができるよう努めている。</p>
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>会話を多く持つ様にし、何を思っているのか、どうしたいのか等、聞き出せるように努めている。</p>	<p>具体的傾聴内容に理解を示そうと努めている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>来訪時には、会話を持つようにし、話しやすい雰囲気を作るように努めている。</p>	<p>傾聴内容に理解を示そうと努めている。</p>

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、必要であれば他のサービスの紹介もやっている。	○	管理者、計画作成者以外のスタッフも相談を受けられるように取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族と一緒に泊まることができる。		御家族と情報交換を密に行い、協力しながら、本人が早く馴染めるようにサポートしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人一人を尊敬し、色々なことを教えてもらっている。学ばせてもらう気持ちを大切にしている。		利用者一人一人の得意分野を知り、毎日生き活きと生活できるようなレクリエーションを行っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族とそこまでの関係には至っていないが、関係が築けるよう努めている。	○	情報交換を密に行い、御家族とスタッフが共通意識を持てるように関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係の支援はできていない。	○	センター方式の活用、両者より話を聞くことを通して、これまでの関係を理解し、支援に繋げていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援できていない。	○	これまでの生活習慣や馴染みの物を継続させるための方法を考えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に外出する機会を作ったり、会話に巻き込んでいき、他利用者と関わっていけるように気をつけている。		少しずつ利用者同士の関係が良くなってきていると思うので、これからも同様にサポートしていきたい。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、契約終了後に、継続して関わりを持っている利用者はいない。	○	契約終了後も気軽に立ち寄っていただけるよう、付き合いを大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人を尊重し、希望や意志を大切にしている。		毎日の会話の中から希望や意志を開けるようなコミュニケーションをとるように努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にセンター方式の生活歴等の記入をしてもらっている。本人、家族の方から、これまでの生活について、会話の中で聞いている。		これまでの生活歴を知り、毎日生き活きと暮らすために、情報を活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日どのように過ごしていたか、様子等を個別ケースに毎回記入し、月一回のケース会議、又は、必要時に意見交換している。申し送りを徹底して行っている。		ケース記入、申し送り、意見交換等によって、各スタッフが常に共通の情報を把握するように徹底したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向を取り入れ、ケース会議で全スタッフがモニタリングや課題分析を行ったものをケアマネがまとめ作成している。		ケアマネ、計画作成係、御本人、御家族が話し合える時間をもうけている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一回のペースで、新たに計画を作成している。何か変化があれば、御家族に報告、相談し、変更している。		何か変化があれば、御家族に報告、相談し、柔軟に対応できるように努めたい。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤者は、必ず一日の様子等を個別ケースに記入、確認し、情報の共有に努めている。また、その記録と職員の意見を元にケアプランの見直しを行っている。		各スタッフが常に要すや変化を意識してケアにあたるようにし、ケアプラン見直しの際に活かせるようにしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急を要する場合の病院受診の付き添いや、要望に応じたレクリエーションの提供に努めている。		本人や御家族の要望に柔軟に応えられるように努めていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	あまり協力できていない。	○	利用者が、より安全、豊かに生活できるよう、各機関と協力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	あまりできていない。	○	利用者が他のサービスで必要なものを、有効なものは何か見出していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議も含め、地域包括支援センターとは、相談等、協力を行っている。		様々な相談を行い、協力関係にある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医による月2回の往診、必要時には相談、往診してもらっている。		緊急時には主治医に相談し、速やかに対応するよう努めていく。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	必要があれば行う。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	馴染みの看護師と24時間連絡が取れる体制になっている。小規模の看護師にも相談できる。	体調の変化等、速やかに相談し、適切な対処ができるように努めたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	地域医療相談室等と連携をとりながら、病状の把握や早期退院に向けた話し合いを行っている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	契約時に医療連携体制における指針(終末期)を示し、説明同意をえている。ただ現在該当者がおらず、具体的な話し合いはしていない。	○ 他ユニットでは、終末期ケアを実践していたので、ケアの心構え、方法等、参考にして少しずつ準備していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	まだ終末期ケアを経験しておらず、今は検討していない。	○ 他ユニットで実践した終末期ケアについて、参考にして考えていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居時には、御家族と情報交換、協力をし、本人が新しい環境に慣れるためにサポートするよう努めている。	本人の心身ケアを優先し、職員、御家族とで協力していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねていないとは言い切れない。	○ 言葉かけ、対応をスタッフ全員で見直す必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何が食べたいか、どこに行きたいか等、リクエストを聞いたり、服を選んでもらったりしている。何かをするときは、尋ねて意思を確認するようにしている。	自己決定できる機会をより多く作り、納得できる生活を送ってもらえるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるように努め、外出希望がある方には、できる限り応じるように心掛けている。	スタッフ間の情報交換を密にし、時間を有効に使い、利用者の希望に柔軟に対応していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院に行ってもらっている。整髪の声かけをし、自分で身だしなみを整えてもらうように努めている。	外出時には、特に身だしなみを整えるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるときには、声をかけて手伝ってもらっている。	○ 月に1度は利用者主体となって食事準備ををするように努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、希望に応じて提供している。飲み物、おやつは、リクエストを聞いて出すこともある。	体に支障がない限り本人、家族の要望に応じていきたい。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意がある方には、ご自分のタイミングでトイレに行ってもらっている。尿意がない方には、トイレ誘導をして、トイレで排泄できるように支援している。	○	尿意がない方にもできる限りトイレで排泄してもらえるよう、排泄パターンを把握し、パターンに合わせてトイレ誘導をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決まっているが、時間帯の希望がある方には応じるようにしている。		一定の利用者の希望だけを優先することのないようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れているときには、昼寝をしてもらっている。昼間にできるだけ活動してもらって、夜はゆっくり眠れるように心掛けている。		一人一人の健康状態を把握し、適切な休息をとれるよう支援したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水やりや手入れ、洗濯、買い物等、本人の意欲に合わせてしてもらっている。		一人一人の能力や楽しみを知り、それを活かした支援ができるように努めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持希望の方はいない。		希望があれば、尊重し支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、買い物、ひなたぼっこ等で外に出かけるようにしている。		利用者の要望にできる限り対応できる体制づくりをしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月一回の外出先を決める際、どこに行ってみたいか、希望を聞くようにしている。		集団での外出ばかりだったが、個別に合わせての外出も努めている。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの希望があれば、電話をかけてもらっている。	○	字が書ける方には、御家族への手紙を書いてもらえるか、支援してみたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪された際には、会話をし、スタッフにも馴染んでもらえるように心掛け、気軽に訪問してもらえるように努めている。		来訪時に、気兼ねなく過ごしてもらえるよう場所づくり等、工夫していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		身体拘束をすることなくケアを実践している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、廊下の鍵は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。		自由に出入りができ、利用者がどこかへ行ってしまったり、不審者が入ってくるというリスクもあるので、見守りの徹底に努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく所在や様子を把握するように努めている。訪室し、会話をして様子を把握することもある。		本人のペースで生活できるように配慮しつつ、安全に生活してもらえるように努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	目の届く場所には置かないようにしている。		各利用者に合った危険防止のための対応策を随時考えていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを置き、緊急時には迅速に対応できるように努めている。		各利用者に応じて、事故防止等を考えている。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の対応マニュアルはあるが、全てのスタッフが共有しているとは言えない。		順次、応急手当の研修を受け、全スタッフが対応できるようになりたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を通し、避難場所は把握できている。近所の方にも、避難訓練に参加してもらっている。		災害時、地域の人々の協力を得られるよう、交流の持てる避難訓練から働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	来訪時等に、説明している。		利用者が抑圧感を感じる事が少なくなるよう、環境等にも努めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化、異変があったときには、すぐ主治医に連絡し、指示をもらい、スタッフ間で情報を共有している。又、速やかに御家族にも報告するようにしている。		全スタッフが同じ情報を共有し、迅速な対応がとれるように努めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックシートを使用している。又、一人一人の服薬箱に薬の目的がわかるようにしている。服薬の徹底に努めている。		全スタッフが薬の目的等を把握し、症状の変化等、見逃さないよう努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の場合は主治医に薬を処方してもらっている。運動不足にならないよう心掛けている。オリゴ糖を使用し予防に努めている。		トイレの自立している利用者の排便の有無の把握に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼、夕食後は出来ているが、朝食後は食前のうがいがとれている。		毎食後のうがいの徹底。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人差はあるが、栄養摂取や水分補給に努めている。摂取量が少ないときは、食べやすい物、好きな物等その時に応じて工夫して提供している。		摂取量等に変化があるときは、一層全スタッフ把握に努める。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、予防、対応している。		利用者、スタッフ間での感染についても予防、対応を行っている。スタッフ(希望者)、利用者(全員)は予防接種を受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の期限チェック、一日一回ハイター除菌を毎日行っている。		加熱ができる食材については加熱し、予防に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間以外は玄関を開放している。		玄関周りには花や木が多く、床も清潔感のある白色なので、親しみやすくなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは台所に立ちながらでも目が行き届くようになっており、家庭的な雰囲気がある。		台所とトイレの場所が隣り合わせのため、不快な臭いがしないよう努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、一緒に過ごせる空間がある。		利用者それぞれに座り慣れた椅子やソファがあり自由に過ごしておられる。

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ってきてもらっている。		馴染み深い家具や小物等には利用者から思い出を話されることもあり、会話のきっかけになっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに空気の入換え、換気に努めている。	○	トイレや居室が気になる臭いを放つことがあるため、掃除の回数を増やす等して、臭いの削減の努力が必要。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活が送れるように工夫し、転倒しても大丈夫なよう堅くない床を使用している。		手すりが多く設置しており、自立歩行がスムーズ。段差には声かけが必要。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見てわかるように紙に書いて掲示している。(トイレ、居室)		季節感がわかるものの掲示にも努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭まで自由に行くことができ、好きなときに水やり等して頂いている。		玄関先にベンチが置いてあるので外観を楽しんだりもできる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームメイプルリーフ宇治(1階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ドライブ、買い物、外食等外出支援を積極的に行っている。支え合い、自立、開放、前向きという理念の元、毎日のケアにあたっている。家庭的な雰囲気作りを大切にしている。